

「第3回 加古川流域治水協議会」開催

R2.12.11

～新たな関係機関も加わり事前防災対策の加速化に取り組む～

－姫路河川国道事務所－

姫路河川国道事務所では、気候変動による水災害リスク増大に備えるため、河川・下水道管理者等が行う治水対策に加え、流域全体のあらゆる関係者が協働して水害を軽減させる「流域治水」を計画的に推進することを目的とした「加古川流域治水協議会」を設置しています。今回、近畿農政局など新たな関係機関を加え開催しました。

協議会では、全国一ため池が多い兵庫県の地域特性を踏まえ、農地・農業施設等の治水活用による事前防災対策の効果などについて、学識者の神戸大学田中丸教授を迎え、ご講演いただく他、関係機関からの支援施策や取組紹介により、ため池等による事前防災対策を加速化させる重要性を確認しました。

概要

- 開催日時：令和2年12月11日（金）09:30～
- 場所：WEB会議システム
- 参加者：小野市長、加古川市長、加東市長、丹波篠山市長、稲美町長(代理)、加西市長(代理)、神戸市長(代理)、三田市長(代理)、多可町長(代理)、丹波市長(代理)、西脇市長(代理)、播磨町長(代理)、三木市長(代理)、兵庫県、近畿農政局、兵庫森林管理署、神戸地方気象台、姫路河川国道事務所
- 講演：「ため池等による洪水軽減効果について」神戸大学教授 田中丸 治哉氏
- 議事：
 - (1) 規約変更について
 - (2) 関係機関における取組について
 - (3) 総合治水における関係者との協働について
 - (4) 今後の取組みについて

WEB会議の様子



田中丸
神戸大学教授



蓬菜 小野市長



岡田 加古川市長



安田 加東市長



酒井 丹波篠山市長



勝野 兵庫県
総合治水課課長



藤原 近畿農政局
設計課 農業土木専門官



石上 林野庁
兵庫森林管理署長



吉川 神戸地方気象台
水害対策気象官



磯部 姫路河川国道
事務所長

講演

講演では、淡路市、洲本市、南淡路市を例に、ため池、田んぼダム・水田を活用した場合の貯留容量の試算が紹介され、ため池の事前放流による洪水軽減効果について、洪水流出解析の結果から具体的に説明。農業・農村の多面的機能の発揮による「ため池」や「水田」での雨水貯留が、総合治水の取組みとして有効であることが示された。

参加者の主な意見

- 加古川市長・・・街中の貯留槽の設置や学校の校庭貯留の規模と比べて、ため池や田んぼダムによってもたらされる貯留効果が大きいことを改めて意識することができた。すでに市内でも多くの方にご協力頂いており、その恩恵を受ける下流の方々にも効果を伝えていきたいと考えている。
- 小野市長・・・人口の減少や、ため池管理者の高齢化に伴い、ため池を整理していくことが求められている一方で、治水のためにため池を管理していくことが重要となると、今後のため池の管理についてどう考えていくか。将来を見据えた判断をしないといけない時期にきている。
- 田中丸教授・・・私見ではあるが、全てのため池を動員しなくても、治水効果の大きいため池から順次対応していけば、ある程度の治水効果は見込める。維持管理が難しいため池や治水効果が見込めないため池の適切な廃止はあるものであり、様々な観点からため池ごとに「残す、残さない」の議論をしていくことが必要。

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局 姫路河川国道事務所 調査課
〒670-0947 姫路市北条1-250 TEL 079-282-8211

